

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



すもも花咲く(笠岡)

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりがおつとめに真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
3月号

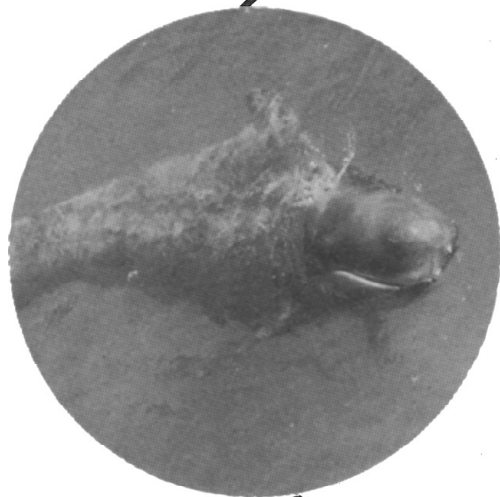


立教156年8月8日号

天理大学教授 上原豊明

第7回 捕鯨問題に考える

いのち いただき
生命を戴く
「食」に感謝を



写真提供=和歌山県太地町立くじらの博物館



五月十日から十四日にかけて、京都で国際捕鯨委員会(IWC)総会が開かれた。当初、日本とノルウェーは、来年の総会で捕鯨再開の手続きを終えることを提案。ミンク鯨の生存数を南極海だけで七十六万頭と推定し、年間二千頭の捕獲が可能としたIWC科学委員会データに基づいたものだ。

しかし通らず、最後の線として年間五十頭の条件付き捕鯨を提案。日本、ノルウェー、中国、ロシアなど賛成十カ国、アメリカ、フランスなど反対十六カ国、デンマークなど棄権六カ国で否決された。

IWCは、乱獲による鯨の減少を食い止め、保存を図るために一九四六年に組織。運用可能な管理法を議論してきたが、八七年になって商業捕鯨の封鎖を決定。今総会では、数が増えているミンク鯨について封鎖決議の修正が求められたが、反捕鯨国が意図的に討論を手間取らせた。

鯨が激減した原因の一つに、欧米から始まった捕鯨母船とキャッチャーボートをセットにした大量捕鯨がある。しかも食用ではなく、鯨油、脳油、龍涎(りゅうぜん)香など、工業用品やぜいたく品が目的の、極端な商業捕鯨であった。さらに、捕獲数を競う面もあり、スポーツ的狩猟の感もなきにしもあらずであったという。

捕れるだけ捕るといふ姿勢から、鯨資源の激減

は当然の結果でもあった。IWCが商業捕鯨再開に対し、聖域(捕鯨禁止区域)設定構想などを掲げるのも無理はないと思える。

だが、捕鯨によって生計を立てていた人々が、いま味わっているであろう苦しみを思いたい。そして、捕鯨のあり方と「食」が不可欠である人間の存在そのものにも、思いを致すべきではないかと考える。



牙(きば)や角のために象やサイが、スポーツ狩猟のためにトラが、毛皮のためにさまざまな動物が、生存を脅かされてきた。金もうけや楽しみだけの狩猟は、エゴイズムそのものである。

一方、インドネシア・ロンバタ島ラメラ村では、昔ながらの漁法で鯨を捕っている。一九七三年、鯨資源の調査を行う国連チームが、安全で効果的な近代捕鯨を教え、キャッチャーボートを紹

介した。だが、使ったのは二年だけ。理由は、捕り過ぎて鯨がいなくなってしまうからだ。

彼らは、小さな舟で鯨を囲み、古来からの綱付きの銚(もり)を打ち込む。危険極まりない捕獲方法だが、それだけに一頭の捕獲は、村全体への神からの授かりものである。もちろん、頭から尾ひれまで、無駄のない完全消費である。

広大な放牧場をもたない島国・日本は、海洋の動物性タンパク質に依存してきた。その中で、鯨も大きな位置を占める。かつて鯨は、「一浦で一鯨を捕れば七郷がにぎわう」と、十分な食糧と燃料を授けてくれる海の幸であった。

こんな思いで捕鯨をした先人たちは、食膳に上がる一片の肉切れに対しても、海の幸として神への感謝をささげた。その一方で、生命への畏(い)敬、感謝もまたはぐくまれたようだ。

ここで、教祖(おやさま)のお言葉を思い出す。教祖は泥鰌(どじょう)にしろモロコにしろ、「食べる時には、おいしい、おいしいとやうてやっておくれ。人間に、おいしいとやうて食べてもらうなら、喜ばれた理で、今度は出世して、生まれ替わる度毎(ごと)に、人間の方へ近うなってくるのやで」(『稿本天理教教祖伝逸話篇』一三二「おいしいとやうて」とおっしゃられた。人間は植物であれ動物であれ、他の生命をいただいて生きている。「おいしい」という感謝を込めて食する

姿勢は、当たり前のことだ。

だがいま、日本人の日々の食膳は、季節のけじめもなく、世界中から集めた豊富な食品で埋まっている。食べ残しも多く、感謝の心も薄れたように思う。

捕鯨問題は鯨だけの問題ではなく、食の本質を振り返り、無駄のない生活に改めていく機会とも思える。地球環境の中で、食の連鎖の頂点に立つ人間は、生命の意味を謙虚に受けとめるロコにしろ、「食べる時には、おいしい、おいしいとやうてやっておくれ。人間に、おいしいとやうて食べてもらうなら、喜ばれた理で、今度は出世して、生まれ替わる度毎(ごと)に、人間の方へ近うなってくるのやで」(『稿本天理教教祖伝逸話篇』一三二「おいしいとやうて」とおっしゃられた。人間は植物であれ動物であれ、他の生命をいただいて生きている。「おいしい」という感謝を込めて食する姿勢は、当たり前のことだ。

だがいま、日本人の日々の食膳は、季節のけじめもなく、世界中から集めた豊富な食品で埋まっている。食べ残しも多く、感謝の心も薄れたように思う。

捕鯨問題は鯨だけの問題ではなく、食の本質を振り返り、無駄のない生活に改めていく機会とも思える。地球環境の中で、食の連鎖の頂点に立つ人間は、生命の意味を謙虚に受けとめる必要がある。



る。そして教祖のお言葉を心からかみしめ、食べられるものが生かされる食生活を実行したい。そこにこそ、真の食文化に根差した生活があり、捕鯨を正しく見つめ、正当化される道もあるように思う。



老人ホーム訪問の顛末

明石市分教会長 杉原博之

1月20日に年頭会議の後、すき焼きを頂き、夜またお酒を過ごした。遅くなって突然声が出なくなった。どうしたのかなあ？ お酒を飲み過ぎたのかなあと軽く考えていた。21日朝起きると全く声が出ない。分を越えて馳走にあづかったのか？ 風邪をひいたのか……。声に音がなく空気音しか出ない。こりゃ困ったことになった。

22日には神戸の老人ホームで訪問演奏がある。一人でギターの弾き語りなので、唄えないと勤まらない。まあそのうち直るやろうと思うことにした。とにかく気楽な男なのだ。

しかし現実には21日終日声がささやくような声しか出ない。60男のささやき声は気色が悪いぞ。幸いお勤めの役割はチャンポンだった。地方だったら大迷惑をかけるところだ。神様は、前もってちゃんと知っておられるな。

大教会の月次祭を何とか勤め終え明石の教会に

戻る。神殿に額ずき、神様、明日声が出るようにご守護下さいと必死に祈る。明日のことを今から断れない。

22日朝、やっぱり声が出ない。コンビニでロイヤルゼリー入りののだしを買う。漢方の改源を飲む。効かんなあ。産まれて初めて朝から発声練習をする。もう必死だ。あーあーあああうと部屋で発声……。高音に音の色がつかない。「まあ、皆さんと一緒に唄ってもらうんだから」と最後は開き直る。こうなると僕は強いのだ。

勇んでJRで行く。垂水駅から歩いて5分で老人ホームに着いた。「勇んでかかれば埃り散るぞや」と神様の声が聞こえると自分に思い聞かせる。

ホームは18名程か。スタッフというか世話係は4名程。歌う曲の歌詞帳を配り、浪曲子守歌の一節太郎のような声ですがと断って歌い始める。何と神様のご守護だ！ 何とか声が出る。

こうなると勇んで勇んで歌いまくる。喋りまくる。関西人は笑わすのは得意なんです。一人でボケと突っ込みをかます。皆さんも大きい声で歌ってくれる。曲目は「逢いたかったぜ／麦と兵隊／知床旅情／悲しい酒／赤とんぼ／湯の町エレジー／幸せなら手をたたこう」等の古い演歌や唱歌だ。霧島昇や東海林太郎もよくうける。最後には浪花亭綾太郎の壺坂靈験記の浪曲までやるのが得意のパターンだ。

担当の方も始めは愛想がなかったが、終わってからはすごく感謝してくれたのが分かる。終わって夜電話が有り、次回の訪問の依頼が有った。喜んでくれたんだなあ嬉しくなる。

訪問終わってからまた声が出なくなり29日にやっと声が出るようになった。訪問時だけ歌が唄えたんですよ。やっぱり親神様やなあ。有り難い、有り難い。しかしこれからはお酒は控え目にと仰っているんだなあ。



ホームへ訪問するのは昨年から今まで22回ほどになる。一人で行くことが11回、仲間といったのが11回。仲間は15名程。フォークシンガー、ギター

北村アヤコ姉

福春分教会前会長

二月十五日出直されました。

享年 九十六才

訃報



域奉仕にがんばります。

これからお道に地

難うございます。

様・教祖有り

こえる。親神

祖の音が聞

せてね」と優しい教

ね」「お年寄りを喜ば

今回の「声」のことで大きな示唆を頂いた。「声の出るのは当たり前じゃないよ」「酒は控え目に

何処でも行くよ。

神戸市内に39カ所の老人ホームがある。さあ、

として弾くこともある。今度の出番は3月12日だ。

教育委員会主催の中学生不登校児童の応援行事

だ。

持つギター仲間では「知る人ぞ知る」メンバー

アンサンブル、手話シンガー(手話で歌詞を表現

する)。皆、インターネットでもホームページを

【18】それでもあなたは見守られている



からだのことを何も意識しないとき、私たちは健康な証拠です。体内の働きがバランスよく保たれているからです。健康であれば、おのずと自分以外の偉大なる力に支えられてあることを自覚しないのが普通でしょう。いつしか、自分の力で何もかもかなえられるように、錯覚する場合もあり、高じれば傲慢になることも。

しかし、どんなときにも、その”偉大なる力”（元の神・実の神）は、人々を見守り、幸せにくらせるように導いてくださるのです。

天理教ホームページより

<http://www.tenrikyo.or.jp/ja/top.html>

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

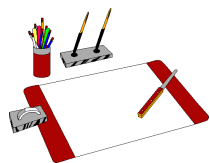
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には只ひたすら子供かわいひ親心から天然自然のお働きを通して一列の子供を分け隔てなく御守護下さると共に旬々に身上や事情を通して節をお見せ下さり陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます。しかしながらその理がわからず只苦しみに喘いでいる人やそれから逃れたいかのように目先の楽しみばかりを追い求めるあまり周りを苦しめている事に気付かずにいる人が多くいます事は誠に残念でなりません。お道にお引き寄せ頂いた私共は日々喜びと感謝の心一杯に朝に夕にと御礼申し上げつつ御恩報じを思い念じて真の親心の有難さと大切さを伝えるべくたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております。その中にも今日の吉日はこれの名称にお許し下された御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一人に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて二月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には暖冬とはいえ寒さ厳しい中も厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ変わらぬ御守護にお縋りする状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて卒業と入学そして進学の時期を迎え子供達は不安と期待に胸膨らませていますがその子供達を取り巻く環境は決して良いとは言えません。中でも特に子供を育てるべき私達大人が子供に気遣い遠慮し更には多様化する現代にあって真実を見失い育て方さえわからなくなっているのが現状でこのままでは世の中は益々混乱を深めるのが必定でございます。だからこそ学生時代に真実の親を教え生きる目的を示す必要があります。本日祭典に引き続き学生層育成者講習会を開催させて頂きより一層育ての思いを強めると共に少年会活動・鼓笛活動又学生生徒修養会・春の学生おぢば帰り等の参加を積極的に声掛けをしていく等して育成の上にも邁進させて頂く所存でございます。何卒親神様には旬々にお与え頂く節を生き節にすべく成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上にも更なる自由の御守護を賜ると共にこれからの真実の道を引き継ぐ者が弥増しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。



たかが駅弁、
されど馬鹿弁
駅弁という
ものは大体1000
円前後のもの
だろう。2000円

なら一寸高いと思う。ところが1万円の駅弁がある。目から火が出るが、それでも売れるから世の中は広い。しかしこれは序の口。これぞ駅弁の大王というのがある。箸だけでも1万円、中身も精々1万円か。ならば箱の値段か。では全部で3万か、5万か。無礼者！この駅弁を何と思うか。15万なるぞ、15万円!!それが売れるというから凄みをおびてくる。箸も弁当箱も日光彫である。さもあらむ。

世も末と思うか、豊かさの象徴と思うか、世の中平和すぎるのも考えものだ。今日一日、今、世界中で1日4万人前後の子供達が飢えて死んでいる。

参考までに、結婚式の披露宴で食べ残しの%は、平均22.5%。又、各種パーティーの食べ残しの%は、平均15.2%という。

教祖のお言葉に、「菜の葉一枚でも粗末にせぬように」「すたりもの身につくで。いやしいのと違う」教祖伝逸話編 112。(か)